Informatica

Informatica® Cloud Data Integration

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタ

Informatica Cloud Data Integration Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタ
2020 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2017, 2021

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複写、写真複写、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、および PowerCenter は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web（https://www.informatica.com/trademarks.html ）にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、https://www.informatica.com/legal/patents.html を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2021-03-16

目次

序文 4

Informatica のリソース 4

Informatica マニュアル 4

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト 4

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ 4

データ統合マーケットプレイス 5

データ統合コネクタのドキュメント 5

Informatica ナレッジベース 5

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center 5

Informatica グローバルカスタマサポート 5

第 1 章 : Microsoft Azure ストレージ Microsoft Azure Blob ストレージ V2 概要 6

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの概要 6

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ 7

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの例 7

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの管理 7

第 2 章 : Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続 8

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続の概要 8

Microsoft Azure Blob Storage V2 接続のプロパティ 8

第 3 章 : 同期 での Microsoft Azure Blob ストレージ V2 9

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 タスク内の 同期 ストレージソース 9

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 同期タスク 同期 ターゲット 10

同期タスクのルールとガイドライン 11

第 4 章 : Microsoft Azure Blob ストレージでの マッピング マッピング Microsoft Azure Blob ストレージ V2 12

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングでのソース 12

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングのターゲット 13

ターゲットの指定 14

ターゲットのタイムスタンプ 15

マッピングおよびマッピングタスクのルールとガイドライン 16

付録 A : Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型リファレンス 17

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型リファレンスの概要 17

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 とトランスフォーメーションデータ型 18

索引 19

序文

*Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタ*を使用して、Cloud Data Integration で Microsoft Azure Blob Storage に対して読み取りまたは書き込みを行う方法について説明します。Cloud Data Integration での Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続の作成、マッピング、マッピングタスク、および一括取り込みタスクの開発と実行方法を確認します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム（infa_documentation@informatica.com）までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト（http://www.informatica.com/cloud）にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration

アプリケーション統合（Informatica Cloud Real Time サービス）の使用方法に関するリソースを検索するには、次のコミュニティにアクセスしてください。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-application-integration/content

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers

データ統合マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、データ統合統合テンプレート、およびデータ品質マップレットを試用したり購入したりできます。

https://marketplace.informatica.com/community/collections/cloud_integration

データ統合コネクタのドキュメント

データ統合コネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、https://docs.informatica.com にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、https://search.informatica.com にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム（KB_Feedback@informatica.com）です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center（https://www.informatica.com/trust-center.html）にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。Informatica Intelligent Cloud Services Status ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

登録するには、https://status.informatica.com/に移動し、**[更新を購読登録]** をクリックします。その後、電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィードとして、またはこの 4 つを任意に組み合わせて送信された通知を受信することを選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の **[サポート要求の送信]** をクリックして下さい。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。https://network.informatica.com/welcome でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html に掲載されています。

第 1 章

Microsoft Azure ストレージ Microsoft Azure Blob ストレージ V2 概要

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの概要, 6 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ, 7 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの例, 7 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの管理, 7 ページ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの概要

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタを使用すると、Microsoft Azure ストレージ内の Blob に対して区切りデータの読み取りまたは書き込みを実行できます。 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 に書き込むときに、区切りデータをターゲットオブジェクトに挿入したり、新しいターゲットオブジェクトを作成したりできます。

Blob は、任意のタイプとサイズのファイルであり、Microsoft Azure ストレージのコンテナに編成されています。ページ Blob、 ブロック Blob、 または追加 Blob である区切りファイルに アクセスするには、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続を使用します。

Microsoft Azure Blob ストレージに対して区切りデータの読み取りまたは書き込みを行うときに、Hosted Agent または Secure Agent を指定できます。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタのタスクタイプおよびオブジェクトタイプ

以下の表に、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトタイプのうち、 データ統合 タスクで使用できるものを示します。

タスクタイプ	ソース	ターゲット	ルックアップ
同期	○	はい	×
マッピング	○	はい	×

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの例

営業活動の担当者として、組織の売上増大のためにリードをスコアリングするとします。Salesforce から Microsoft Azure ストレージにリードを取り込む必要があります。Microsoft Azure Machine Learning で販売準備のためにリードをスコアリングし、リードスコアを Salesforce にロードできます。定期的に実行するタスクフローをスケジュールすることによって、最新のリードおよびリードスコアでデータを常に最新の状態に維持できます。

Salesforce には、リードが連絡先情報、業種、企業規模、マーケティング情報などのデータとともに保存されています。

同期 Salesforce から Microsoft Azure Blob ストレージ V2 にリードを挿入するように同期タスクを設定します。Microsoft Azure Machine Learning を使用して 同期 リードスコアを Salesforce にロードする別の同期タスクを作成します。

同期タスクがスケジュールどおりに 同期 タスクフローを作成します。営業部門は、見込み客の最新のリードスコアを参照し、最も有望なリードに焦点を当てて、効率を上げることができます。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 コネクタの管理

タスク内の Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトを使用する前に、管理者は以下のタスクを実行する必要があります。

- Microsoft Azure Blob ストレージのストレージアカウント名とアカウントキーを取得する。
- Microsoft Azure Blob ストレージに Blob コンテナを作成する。

第 2 章

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続の概要, 8 ページ
- Microsoft Azure Blob Storage V2 接続のプロパティ, 8 ページ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続の概要

Microsoft Azure Blob ストレージの Blob にアクセスするための Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続を作成します。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続は、同期タスクウィザードの **[接続]** ページ、 同期 マッピングタスク マッピング 作成します。作成した接続は、組織全体で使用できるようになります

Microsoft Azure Blob Storage V2 接続のプロパティ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続を作成するときには、接続プロパティを設定する必要があります。

以下の表に、Microsoft Azure Blob ストレージ V2 接続プロパティを示します。

接続プロパティ	説明
ランタイム環境	タスクを実行するランタイム環境の名前。
アカウント名	Microsoft Azure Blob ストレージアカウント名。
アカウントキー	Microsoft Azure Blob ストレージアクセスキー。
コンテナ名	Microsoft Azure Blob ストレージコンテナ名。

第 3 章

同期 での Microsoft Azure Blob ストレージ V2

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 タスク内の 同期 ストレージソース, 9 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 同期タスク 同期 ターゲット, 10 ページ
- 同期タスクのルールとガイドライン, 11 ページ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 タスク内の 同期 ストレージソース

同期 タスクを Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ソースとともに作成するときに、ソースプロパティを設定できます。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 プロパティをデータ同期タスクウィザードの **［ソース］** ページで 同期 できます。

以下の表に、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 のソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続名	ソース接続の名前。
ソースタイプ	ソースタイプ。単一ソースオブジェクトの場合、 **［シングル］** を選択します。
ソースオブジェクト	ソースオブジェクトとして使用する Microsoft Azure Blob ストレージ V2 Blob。
形式オプション	**［形式オプション］** ダイアログボックスを開いて、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。

以下の表に、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 詳細ソースプロパティを示します。

詳細プロパティ	説明
Blob Store への同時接続数	ファイルをダウンロードする Blob Store への同時接続数。デフォルトは 4。
Blob 名のオーバーライド	デフォルトのファイル名をオーバーライドします。
Blob コンテナのオーバーライド	デフォルトのコンテナ名をオーバーライドします。 **注**: 実行時に新しいターゲットを作成し、[Blob コンテナのオーバーライド] プロパティを選択すると、接続で指定したコンテナに Secure Agent が空のヘッダーファイルを生成します。
Blob の最初の行のヘッダー	Blob の最初の行がヘッダーで、Secure Agent が最初の行を読み取らないことを示します。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 同期タスク 同期ターゲット

同期タスクのために Microsoft Azure Blob ストレージ V2 でデータをターゲットに挿入したり、 同期 作成したりできます。 同期タスクでは、ターゲットとして単一の Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトまたは複数の関連する Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトを 同期 できます。複数の Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ターゲットを設定するときには、親オブジェクトを選択したり、子オブジェクトを追加したりできます。

同期タスクウィザードの［ターゲット］ページで Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ターゲット **プロパティ** を 同期 します。

以下の表に、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ターゲット接続の名前。
ターゲットオブジェクト	ターゲットオブジェクトの名前。
形式オプション	**[形式オプション]** ダイアログボックスを開いて、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。

同期タスクウィザードの［スケジュール］ページで Microsoft Azure Blob ストレージ V2 詳細ターゲット **プロパティ** を 同期 します。

以下の表に、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 詳細ターゲットプロパティを示します。

詳細プロパティ	説明
Blob Store への同時接続数	ファイルをアップロードする Blob Store への同時接続数。デフォルトは 4。
Blob 名のオーバーライド	デフォルトのファイル名をオーバーライドします。このプロパティは、圧縮された Blob ファイルを Microsoft Azure Blob ストレージに書き込む場合に使用する必要があります。
Blob コンテナのオーバーライド	デフォルトのコンテナ名をオーバーライドします。 **注**: 実行時に新しいターゲットを作成し、［Blob コンテナのオーバーライド］プロパティを選択すると、接続で指定したコンテナに Secure Agent が空のヘッダーファイルを生成します。
Blob の最初の行のヘッダー	ターゲットファイルにヘッダーを作成します。このオプションが選択されていない場合、ヘッダーはターゲットファイルに作成されません。
新たに作成された Blob を圧縮	True に設定すると、新しく作成された Blob は圧縮されます。
書き込みストラテジ	追加 Blob を選択すると、ブロックを Blob に追加します。
BLOB のタイプ	ブロック Blob または追加 Blob にデータを書き込みます。
成功ファイルディレクトリ	なし
エラーファイルのディレクトリ	なし

同期タスクのルールとガイドライン

同期タスクを設定するときには、次のガイドラインを考慮してください。

- Microsoft Azure Blob Storage ソースを読み取るタスクを実行する場合は、区切り文字としてカンマまたはパイプを使用します。
- 同期タスクのデータプレビュー時および実行時に［テキスト修飾子］形式オプションが無視されます。
- ソース BLOB にテキスト修飾子として一重引用符（'）が含まれていないことを確認します。
- Blob を上書きしない場合は、**［新たに作成された Blob を圧縮］**オプションが無視されます。

第 4 章

Microsoft Azure Blob ストレージでの マッピング マッピング Microsoft Azure Blob ストレージ V2

この章では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングでのソース, 12 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングのターゲット, 13 ページ
- マッピングおよびマッピングタスクのルールとガイドライン, 16 ページ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングでのソース

マッピングでは、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトを表すようにソーストランスフォーメーションを設定できます。

以下の表に、ターゲットトランスフォーメーションで設定できる Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ソースプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続名	ソース接続の名前。
ソースタイプ	ソースタイプ。次のいずれかのタイプを選択します。- - 単一オブジェクト - パラメータ: マッピング タスクを設定するとき、ソースタイプを定義するには、［パラメータ］を選択します。
オブジェクト	ソースオブジェクトとして使用する Microsoft Azure Blob。

プロパティ	説明
形式オプション	**[形式オプション]** ダイアログボックスを開いて、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。
フィルタ	簡易フィルタには、フィールド名、演算子、値が含まれます。詳細フィルタを使用するとより複合フィルタ条件を定義できます。例えば、AND 論理演算子または OR 論理演算子を使用して、複数の条件を組み込むことができます。
Blob Store への同時接続数	ファイルをアップロードする Blob Store への同時接続数。デフォルトは 4。
Blob 名のオーバーライド	デフォルトのファイル名をオーバーライドします。
Blob コンテナのオーバーライド	デフォルトのコンテナ名をオーバーライドします。 **注**: 実行時に新しいターゲットを作成し、[Blob コンテナのオーバーライド] プロパティを選択すると、接続で指定したコンテナに Secure Agent が空のヘッダーファイルを生成します。
Blob の最初の行のヘッダー	生成された Blob の最初の行がヘッダーで、 Secure Agent が最初の行を読み取らないことを示します。
トレースレベル	ログファイルに表示される詳細情報の量を設定します。[簡易]、[ノーマル]、[詳細 - 初期化]、[詳細 - データ] から選択できます。デフォルトは [ノーマル] です。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 マッピングのターゲット

マッピングでは、 Microsoft Azure Blob ストレージ V2 オブジェクトを表すようにターゲットトランスフォーメーションを設定できます。

以下の表に、ターゲットトランスフォーメーションで設定できる Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ターゲットプロパティを示します。

プロパティ	説明
接続	ターゲット接続の名前。
ターゲットタイプ	ターゲットのタイプ。次のいずれかのターゲットタイプを選択します。 - 単一オブジェクト。 - パラメータ。 **[パラメータ]** を選択すると、タスクを設定するときにターゲットタイプを定義できます。
オブジェクト	ターゲットオブジェクトとして使用する Microsoft Azure Blob ストレージ V2 Blob。

プロパティ	説明
形式オプション	**［形式オプション］** ダイアログボックスを開いて、ファイルの形式を定義します。 次の形式オプションを設定します。 - 区切り文字: 区切り文字。カンマ、タブ、コロン、セミコロンなどのパラメータを設定できます。 - テキスト修飾子: テキストを修飾する文字。単一引用符、二重引用符などのパラメータを設定できます。 - エスケープ: エスケープ文字。 **注**: ［テーブルの作成］を選択した場合、形式オプションは無視されます。
操作	ターゲット操作。 **［挿入］** を選択します。データは、Microsoft Azure Blob ストレージ V2 ターゲットにのみデータを挿入できます。
Blob Store への同時接続数	ファイルをアップロードする Blob Store への同時接続数。デフォルトは 4。
Blob 名のオーバーライド	デフォルトのファイル名をオーバーライドします。このプロパティは、圧縮された Blob ファイルを Microsoft Azure Blob ストレージに書き込む場合に使用する必要があります。
Blob コンテナのオーバーライド	デフォルトのコンテナ名をオーバーライドします。 **注**: 実行時に新しいターゲットを作成し、［Blob コンテナのオーバーライド］プロパティを選択すると、接続で指定したコンテナに Secure Agent が空のヘッダーファイルを生成します。
Blob の最初の行のヘッダー	ターゲットファイルにヘッダーを作成します。このオプションが選択されていない場合、ヘッダーはターゲットファイルに作成されません。
新たに作成された Blob を圧縮	True に設定すると、新しく作成された Blob は圧縮されます。
書き込みストラテジ	追加 Blob を選択すると、ブロックを Blob に追加します。
BLOB のタイプ	ブロック Blob または追加 Blob にデータを書き込みます。
成功ファイルディレクトリ	なし
エラーファイルのディレクトリ	なし

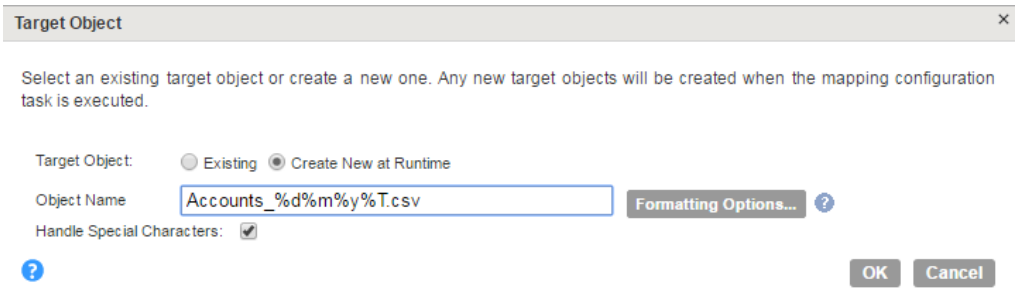
ターゲットの指定

マッピングの結果は、既存のターゲットに保存することも、新たにターゲットを作成して保存することもできます。ターゲットを作成することを選択した場合、エージェントはタスクの実行時にターゲットを作成します。

ターゲットのプロパティを指定するには、次の手順に従います。

1. マッピングでターゲットトランスフォーメーションを選択します。
2. **［受信フィールド］** タブで、ターゲットに含めるフィールドを指定するフィールドルールを設定します。
3. ターゲットを指定するには、 **［ターゲット］** タブをクリックします。
4. ターゲット接続を選択します。
5. ターゲットタイプに、 **［単一オブジェクト］** または **［パラメータ］** を選択します。

6. ターゲットオブジェクトまたはパラメータを指定します。
   - 実行時にターゲットファイルを作成するには、拡張子を含めてターゲットファイルの名前を入力します。例えば、 `Accounts.csv` のようにします。
   - ファイル名にタイムスタンプを含める場合は、 **[特殊文字の処理]** をクリックして、特殊文字をファイル名に追加します。例えば、すべてのタイムスタンプ情報を含める場合は、 `Accounts_%d%m%y%T.csv` のように指定します。
7. ファイルの形式オプションを設定する場合は、 **[形式オプション]** をクリックし、 **[OK]** をクリックします。
8. **[選択]** をクリックし、ターゲットオブジェクトを選択します。実行時に既存のターゲットオブジェクトを選択するか、新しいターゲットオブジェクトを作成して、オブジェクト名を指定することができます。



9. 必要に応じて、ターゲットの詳細プロパティを指定します。

ターゲットのタイムスタンプ

実行時にターゲットを作成する場合、タイムスタンプ情報をファイル名に追加して、ファイルがいつ作成されたのかを示すことができます。

ターゲットファイルのファイル名を指定する場合は、Linux STRFTIME 関数の形式に基づいて、 マッピング タスクがタイムスタンプ情報をファイル名に追加するときに使用する特殊文字を含めます。タイムスタンプは、組織のタイムゾーンに基づいています。

以下の表に、マッチングまたはマッピング設定タスクで使用する可能性のある一般的な STRFTIME 関数の マッピング 示します。

特殊文字	説明
%d	2 桁の 10 進数で表される日（01～31）。
%m	2 桁の 10 進数で表される月（01～12）。
%y	2 桁の 10 進数で表される、世紀を含まない年（00～99）。
%Y	世紀を含む年（2015 など）。
%T	24 時間表記の時刻（%H:%:M:%S に相当）。
%H	24 時間表記の時間（00～24）。
%l	12 時間表記の時間（01～12）。
%M	10 進数で表される分（00～59）。

特殊文字	説明
%S	10 進数で表される秒（00〜60）。
%p	AM または PM。

マッピングおよびマッピングタスクのルールとガイドライン

マッピングおよびマッピングタスクを設定するときには、次のガイドラインを考慮してください。

- Microsoft Azure Blob Storage ソースを読み取るタスクを実行する場合は、区切り文字としてカンマまたはパイプを使用します。
- マッピングタスクを作成すると、詳細ソースおよびターゲットプロパティにある Blob 属性の先頭行のヘッダーがデフォルトで無効になります。ターゲットにヘッダーを書き込む場合は、ヘッダーを有効にします。

付録 A

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型リファレンス

この付録では、以下の項目について説明します。

- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型リファレンスの概要, 17 ページ
- Microsoft Azure Blob ストレージ V2 とトランスフォーメーションデータ型, 18 ページ

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型リファレンスの概要

データ統合 アプリケーションは、タスク内で Microsoft Azure Blob ストレージのネイティブデータ型と文字列トランスフォーメーション

Microsoft Azure Blob **ストレージのネイティブデータ型**

Microsoft Azure Blob ストレージのデータ型は、フィールドのメタデータを編集するときに、ソースおよびターゲットトランスフォーメーションの［フィールド］タブに表示されます。

トランスフォーメーションデータ型

残りのトランスフォーメーションに表示されるデータ型のセットです。ANSI SQL-92 汎用データ型に基づく内部データ型で、プラットフォーム間でデータを移動するときに データ統合 によって使用されます。トランスフォーメーションデータ型は、マッピング、 同期 タスク、または マッピング タスクの残りのすべてのトランスフォーメーションに表示されます。

データ統合 アプリケーションは、ソースデータを読み取るときに、ネイティブデータ型を対応するトランスフォーメーションデータ型に変換してからデータのトランスフォーメーションを実行します。 データ統合 アプリケーションは、ターゲットに書き込むときに、トランスフォーメーションデータ型を対応するネイティブデータ型に変換します。

Microsoft Azure Blob ストレージ V2 とトランスフォーメーションデータ型

以下の表に、Secure Agent がサポートする Microsoft Azure Blob ストレージ V2 データ型と、対応するトランスフォーメーションデータ型を示します。

Microsoft Azure Blob **ストレージ** V2 **ネイティブデータ型**	**トランスフォーメーションデータ型**	**範囲と内容**
String	String	1～104,857,600 **文字**

索引

B
BLOB 6

C
Cloud Application Integration コミュニティ
　URL 4
Cloud 開発者コミュニティ
　URL 4

I
Informatica Intelligent Cloud Services
　Web サイト 4
Informatica グローバルカスタマサポート
　連絡先情報 5

M
Microsoft Azure Blob ストレージ V2
　接続プロパティ 8

W
Web サイト 4

あ
アップグレード通知 5

え
エラーファイル 7
エラーファイルのディレクトリ 10

し
システムステータス 5

す
ステータス
　Informatica Intelligent Cloud Services 5

そ
ソース
　同期タスク内 9
ソーストランスフォーメーション
　Microsoft Azure Blob ストレージ V2 のプロパティ 12
ソート済みポート 9

た
ターゲット
　同期タスク 10
ターゲットオブジェクト
　複数 10
ターゲットトランスフォーメーション
　Microsoft Azure Blob ストレージ V2 のプロパティ 13
ターゲットの作成
　ターゲットファイルのパラメータ化 15
　タイムスタンプの追加 15
ターゲットの指定 14

て
データ型を使用します。 17

と
トレースレベル 12

ふ
ファイル
　区切り 6

ま
マッピング
　ターゲットプロパティ 13
　ソースのプロパティ 12
マッピングでのソース 12
マッピングのターゲット 13

め
メンテナンスの停止 5